

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社

ノバルティス ファーマが発表しました、「ゾレドロネート（一般名）」に関するリリースの日本語訳抜粋をご参考までにお届けします。

## 肺がんに伴う骨合併症の治療に「ゾレドロネート」の有効性が示唆される

- 第38回米国がん治療学会（ASCO：米フロリダ州オーランド）での発表 -

### 2002年5月22日、スイス・バーゼル発

ゾレドロネート（海外での販売名：ゾメタ<sup>®</sup>）が、非小細胞肺がんをはじめとする固形がん患者の骨転移による骨合併症の発現を、2ヵ月以上遅らせるという臨床試験成績が、第38回米国がん治療学会（ASCO：米フロリダ州オーランド）で発表されました。骨痛、病的骨折、骨病変に対する放射線治療あるいは外科的手術、脊髄圧迫、高カルシウム血症などの骨合併症（骨関連事象）は、進行性がん患者が抱える大きな問題となっています。ゾレドロネートは、これら骨関連事象の発現を遅らせる効果を持つことが証明された、最初のビスホスホネート製剤となりました。

### 発表された臨床成績

ゾレドロネートの臨床試験は、773例の患者（大半は肺がん、その他腎がん、大腸がん、膀胱がん）を対象に実施されました。ゾレドロネート 4mg（15分間の注射）またはそのプラセボを3週間隔で9ヵ月間投与した結果、ゾレドロネート投与群の骨関連事象の発現率は、プラセボ投与群に比べて有意に減少していました（multiple event analysis、リスク比 0.74）。また、骨関連事象の発現時期は、プラセボ投与群の平均 155 日に対してゾレドロネート投与群は平均 230 日であり、ゾレドロネートが骨関連事象の発現を有意（ $p=0.007$ ）に遅らせることが示されました。

進行性がんの患者の生存期間（中央値）は約 6 ヶ月といわれていることから、骨関連事象の発現を 2 ヶ月以上遅らせるということは、医師および患者の双方に対して治療上の大きな利益を意味します。また、ゾレドロネートが骨関連事象の発現を有意（ $p=0.039$ ）に抑制することも確認されました（ゾレドロネート投与群の発現率 38%、プラセボ投与群の発現率 47%）。

\* \* \*

上記の発表には、現時点での将来への予想と期待が一部含まれております。従って、その内容に関しては、また将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる可能性があることをご確認ください。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けております Form 20-F をご参照ください。

ノバルティスは、医薬品、コンシューマーヘルス、ジェネリック、アイケア、動物薬を事業の柱とする、ヘルスケアにおける世界的リーダーで、ニューヨーク証券取引所に上場しています。ノバルティスグループの2001年度の売り上げは320億スイスフラン（約2兆2,400億円）、研究開発には約42億スイスフラン（2,940億円）を投資しています。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約72,600人の社員を擁し、世界140ヵ国以上で事業を行っています。詳細は、<http://www.novartis.com>をご覧ください。

以上